

第四紀研究 第21卷

目 次

第1号(4月)

原著論文

早津賢二・新井房夫：妙高火山群テフラ地域南部の最新世テフラ層 ——示標テフラ層の記載とそれに関係した2・3の問題——	1
松下まり子：播磨灘表層堆積物の花粉分析——内海域における花粉・胞子の動態——	15
星野フサ・木村方一・小林寿美枝・及川淑子・斎藤裕子・遠山容子：石狩平野 南東部に分布する汐見層および下安平層の花粉学的研究	23
短 報	
古賀修一郎：大分県日田～天ヶ瀬付近の溶岩類及び火碎流堆積物と古地磁気	41
解 説	
赤沢 威：旧石器の型式カタログ(5)	49
書 評	53
学会記事	56
投稿規定・送り状・原稿の書き方	62

第2号(7月)

原著論文

加藤 完・池田喜代治・高橋 誠・永田松三： α トラック法による神縄および 国府津-松田断層地域の調査	67
池谷仙之・堀江善裕：静岡県牧ノ原台地に発達する古谷層(上部更新統)の堆積環境	75
短 報	
高橋啓一・小林巖雄・本間義治：日本海の白山瀬より発見された長鼻類臼歯化石	95
総 説	
王 靖泰・汪 品先(米倉伸之・米倉弓子訳)：中国東部の晩期更新世以来の海 面昇降と気海候変化の関係	101
柳田 誠・貝塚爽平：渤海・黄海・東海の最終間氷期以降の海面変化に関する 最近の中国における研究	115
書 評	123
学会記事	124

第3号(10月)

特 集 号

総説：最終氷期以降の海水準変動とそれをめぐる諸問題

藤井昭二：最終氷期以降の海水準変動とそれをめぐる諸問題——シンポジウムの主旨——	129
太田陽子・松島義章・森脇 広：日本における完新世海面変化に関する研究の現状と 問題——Atlas of Holocene Sea-level Records in Japan を資料として——	133
井関弘太郎・森山昭雄・藤井昭二：名古屋港周辺の完新統とその基底地形	145
藤 則雄・松島義章・藤井昭二・北里 洋・森 忍：名古屋港とその周辺の完新統 の古生物に基づく環境解析	153

中井信之・太田友子・藤澤 寛・吉田正夫：堆積物コアの炭素同位体比、C/N 比および FeS ₂ 含有量からみた名古屋港周辺の古気候、古海水準変動	169
井関弘太郎・藤井昭二・藤 則雄：名古屋港周辺資料に基づく完新世の海水準変動	179
藤井昭二・藤 則雄：北陸における後氷期以降の海水準変動	183
前田保夫・松島義章・佐藤裕司・熊野 茂：海成層の上限 (marine limit) の認定	195
佐藤任弘・茂木昭夫：海底地形からみた日本海の海水準変化	203
大嶋和雄：最終氷期の最低位海水準について	211
成瀬敏郎：最終氷期以降の日本沿岸域の風成堆積層——海水準との関連について	223
小野有五：氷河地形による最終氷期の降雪量の復元と海水準変動	229
小泉武栄：化石周氷河斜面、雪食凹地ならびに山地貧養泥炭地の形成からみた 晚氷期以降の多雪化について	245
安田喜憲：福井県三方湖の泥土の花粉分析的研究——最終氷期以降の日本海側 の乾・湿の変動を中心として	255
小池裕子：日本海北陸地域産ハマグリ類の貝殻成長分析	273
討 論	
藤井昭二・成瀬 洋：「最終氷期以降の海水準変動とそれをめぐる諸問題」 ——総合討論——	283

第4号 (1983年1月)

原著論文

D. N. WILLIAMS : Late Quaternary displacement at the Hikihashi and Kitatake Faults, Miura peninsula, Japan	289
辻 誠一郎・宮地直道・吉川昌伸：北八甲田山における更新世末期以降の 火山灰層序と植生変遷	301
短 報	
山中英二：飯豊山地の高山湿草地土の ¹⁴ C 年代	315
書 評	323
雑 錄	325
追 悼 一会员、元評議員 郷原保貞君の死を悼む—(松井 健)	340
学会記事	341